



CHARTERED SEPT. 11, 1953

Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO YAMATE

YAMATE YMCA, 2-18-12, NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO TEL. 03-3202-0321 FAX.03-3202-0329

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-18-12 山手YMCA内

016 - 17 会長主題

招かれた者としてふさわしく

あずさ部長	浅羽俊一郎 (東京山手)	「あずさ部は賜物の宝庫。もっと活かそうぜ！」
東日本区理事	利根川恵子 (川越)	「明日に向かって、今日動こう」
アジア地域会長	Tung Ming Hsiao (台湾)	“ Respect Y's Movement ” 「ワイズ運動を尊重しよう」
国際会長	Joan Wilson (カナダ)	“ Our Future Begins Today. ” 「私たちの未来は、今日より始まる」

会長 金本伸二郎 / 副会長 尾内昌吉 / 書記 増野 肇・飯野毅与志 / 会計 中村孝誠
 直前会長 浅羽俊一郎 / ブリテン 功能文夫 / 担当主事 松本竹弘

2016年10月例会

<EMC/E, YES の月>

とき 10月18日(火) 18:30~20:30
 ところ 山手センター 101号室
 受付 尾内昌吉さん、尾内規子さん
 司会 鈴木田通夫さん
 開会点鐘 会長
 モットー・ワイズソング 一同
 聖句朗読・祈祷 司会者
 ゲスト・ビジター紹介 会長
 会食 一同
 ハッピーバースデー
 楽しい歌 鈴木田祐子さん
 卓話 「字幕の世界に魅せられて」
 映像翻訳者、児童文学者
 小松原 宏子さん
 山手Yの小窓から 担当主事
 ニコニコ 一同
 諸報告 担当主事、会長
 閉会点鐘 会長

当番[第2班] 中村、尾内(規)、鈴木田、飯野

10月 HAPPY BIRTHDAY

飯野毅与志さん 5日

会費の納入は、会計(中村君)への納入または
 下記銀行口座への振込みをお願いします。
 三菱東京UFJ銀行 高田馬場駅前支店
 普通 3548431 「東京山手ワイズメンズクラブ」

ワイズメンズクラブ モットー

『 強い義務感をもとう
 義務はすべての権利に伴う 』
 “ To acknowledge the duty
 that accompanies every right ”

今月の聖句

見よ、兄弟が共に座っている。
 なんとこの恵み、なんとこの喜び。

詩編 133 : 1

9月報告

会員在籍数		16名
例会出席者	メン	9名
	メネット	1名
	ゲスト・ビジター	1名
会員出席率		56%
ニコニコ		5,250円 (累計 17,150円)
B F	国内切手 1kg	外国切手 1kg



9月例会 報告

9月20日(火) 18:30~20:30

山手センター 101号室

出席：浅羽、上妻、飯島、飯島(愛)、尾内、
尾内(規)、金本、中村、松本 9名

メネット 金本佐紀子さん

ゲスト(卓話者) 掛布智久さん

合計 11名

司会 尾内さん

台風16号の影響で大雨、強風の注意報が出た地域もあり、出席予定者の中で鈴木田夫妻、功能、増野の4人が欠席になりましたが、例会は無事に開催出来て、有意義な学びの時をもつことができました。

卓話「原子力を学ぶ」

9月例会は「原子力を学ぶ」と題して公益財団法人日本科学技術振興財団人材育成部主査、**掛布智久さん**から卓話を頂きました。掛布さんは京都大学大学院で学ばれ、学生時代は京都YMCAのバスケットボール、キャンプ、スキーのリーダーとして活躍され、京都の多くのワイズメンとも親しく、山手ワイズの例会に招かれたことを感謝されました。掛布さんの主な仕事は小学生などを対象に、原子力や放射線についての啓発活動をしているそうです。

私たちは三つのグループに分かれ、「いつ、誰が、どこで、何を、する」というケーススタディをしました。設問は10問ありましたが、その一つに、次のものがありました。

「東日本大震災から2年後、小学生のいる親の近所に被災者が家族で引っ越してきた。町内会を仕切っている女性からく仲良くしてあげたいけど、放射線が心配よね。>と言われ、被災者に声をかけにくい状況だ」。声掛けを「する?」「しない?」

この問いにひとり一人、するか、しないかを答え、その理由を述べる。答えの善し悪しではなく、少数意見を大切にすること、モチベーションが高まることが重要だということでした。さまざまなジレンマがあるが、子供たちに放射線のことをどう教えていくか、そのためには重要なこととして次のことが言われました。

- 1、放射線に対する知識を持つこと。
- 2、情報を読み解く力を持つこと。
- 3、ネットワークを広げること。
- 4、実験・体験の機会を増やすこと(教育の重要性)。

そして今日覚えてほしいこととして、ベクレルとシーベルトのちがいがいい。ベクレルは放射線を出す側、放射性物質の単位でいわばピッチャーである。一方、シーベルトは放射線を人体に受ける側、キャッチャーであるということである。また放射線、放射性物質、放射能はそれぞれ異なるものであること。

掛布さんは参加者人数分の高価な放射能測定器を持参され、一人一人が実際にいくつかのサンプルの物質の放射線を測定したりして、難しい問題でありながら楽しく放射線の初歩を学びました。

(飯島隆輔)

ヨルダン会

とき：9月28日(水) 19:00-22:00

ところ：山手センター201号室

出席：金本、浅羽、上妻、尾内、功能、中村、
松本 7名

議事：

- 1、10月例会—10月18日(火)
卓話「字幕の世界に魅せられて」
映像翻訳者、児童文学者
小松原 宏子さん
- 2、11月例会—11月15日(火)
山手・サンライズ・たんぽぽ 合同例会
ジャズ演奏：下間 哲さん、遠藤浩昭さん
ユースによる報告
・ユースコンボケーション
・ユースボランティアリーダーズフォーラム
ニコニコは熊本地震復興支援のために捧げる。
会費：1,500円
別に3クラブから各5,000円を拠出する。
- 3、12月例会
山手センタークリスマス—12月4日(日)
に合流する。
- 4、拡大ヨルダン会(兼忘年会)—12月20日(火)
- 5、1月例会
卓話「福島除染活動に従事して」(仮題)
- 6、2月例会
山手学舎卒業退舎生を送る会
- 7、あずさ部部会 10月22日(土)
会場・YMCA アジア青少年センター
(在日本韓国YMCA)
12:00 山手クラブ員 集合、諸準備
13:00 受付開始
13:30 式典(地下講堂)
14:00 記念講演
蓮見博昭氏(恵泉女学園大学名誉教授)
「アメリカ大統領選挙の最終章と日本」
15:00 記念撮影、9階へ移動
15:20 懇親会(9階 集会室)
17:00 終了
プログラムと役割分担を協議した。
- 8、東京YMCA チャリティーラン
雨天のため中止、参加応援費はそのまま障害児プログラムに充てられる。
- 9、山手センターバザー 10月16日(日)
献品受付中
- 10、東日本区定款見直しについて

YMCAニュース

▼国際協力一斉街頭募金

9月10日(土)、新宿駅前で恒例の「国際協力一斉街頭募金」を行いました。炎天下、多くの方に気持ちを込めて募金の呼び掛けにご協力いただきました。

呼び掛けにご協力くださった人の数 162人、寄せられた募金の合計 146,684円でした。寄せられた募金は、主にバン格拉デシュYMCAの子ども達や若者を支える活動のために大切に用させていただきます。ありがとうございました。

▼第一回しんじゅく防災フェスタ

9月4日(日)に新宿区戸山公園で「第一回しんじゅく防災フェスタ」が開催されました。山手センターは実行委員として関わりを持ち、当日も子ども向けのプログラムを実施しました。ここには、リーダー、活動委員、山手学舎、スタッフが参加し、どのブースよりも人が集まりYMCAの存在感あふれるイベントとなりました。

また、8月25日午前山手センターで防災フェスタプログラムの準備会を実施。午後は、新宿区社協、ピースボート、新宿消防署、YMCAリーダー、スタッフでプログラム研修会を実施しました。

▼ユースボランティアリーダーズフォーラム

9月9~11日、山中湖センターにて第29回ユースボランティアリーダーズフォーラムを開催しました。今年度の担当(事務局)は、山手センターが行い、参加リーダー32名(6YMCA)、カウンセラー6名、講師1名、ワイズ25名(16クラブ)スタッフ3名の参加がありました。

初めての試みとしては、ワイズがカレーライスを作りリーダーをもてなし、また、講師の青山氏がワイズを対象として「YMCAキャンプ入門」の座学を実施しました。来年度は節目の第30回を迎えます。事務局は西東京センター。

▼山手学舎近況報告

8月7~10日、宮城県東松島市にて、被災地支援活動を行いました。山手学舎OBの協力と支援を頂きながら、現地とのやり取りを重ね、8名の舎生が参加しました。上町西地区センターに集う子どもたちを対象に学習支援やクラフト等のプログラムを実施しました。

(松本竹弘)

なにを以て『復興』か

山手センター職員 伊藤 剛士
(元YMCA石巻支援センター駐在)

前任の会員部では、福島県内郡山市で行なわれる「YMCA屋内子ども遊びプログラム～わいわいキッズ in 郡山～」を担当していました。これは福島在住の子ども・親子保養キャンプである「三菱商事・YMCAリフレッシュキャンプ」の参加者から、「福島県にはYMCAが無いので、ぜひ今後は県内で参加できるYMCAプログラムがほしい」という要望から、年に数回継続して行っているものです。子どもたちにはボランティアリーダーやお友だちとの嬉しい再会の場として、保護者には情報交換等交流の場として好評です。2015年2月、今後の活動の参考として、参加保護者数十名に「福島の現状」をインタビューしました（このときの映像は編集して、16年3月の震災5周年礼拝でご報告いたしました）。

お母さんたちのインタビューの話の多くに共通していたことが2つあります。

1つ目は「福島で暮らすことのリスクがもはや分からない」ということ。県内は除染が進み、次第に学校で校庭遊びができるようになったり、給食に福島県産の食材が使われるようになったりしています。行政は「基準値以下」「直ちに影響はない」と言いますが、しかしそれが今後何年・何十年というスパンで子どもたちに本当に影響が無いかは、誰も保証できないのです。それらが不安なお母さんたちは数ある選択の中で最善を尽くそうと、慎重に食材を選んだり、子どもたちが遊ぶ場所の線量を独自に調べたりと、予断を許さない状況に常にあります。それが慢性的なストレスになっていることは想像に難くありません。

2つ目は「人々の、今の福島の生活の考え方・捉え方の違いが、人間関係・コミュニティの崩壊に繋がっている」ということ。上記のように常に被ばくの不安の中にいる人々もいれば、「もう震災や放射能のことは考えたくない、以前と同じ生活をしたい」と考える人々もいます。後者のような方々にとっては、いつまでも被ばくの事を考えている人との関わり合いがストレスになってしまいます。ですから被ばくの不安の中にある方々も、以前ほど自分たちの悩みを簡単に誰かに話すことができなくなっています。

YMCAのプログラムに参加されるお母さんたちは「ここに参加する人々は、今でも保養プログラムを必要としている人たちです」「私たちの中でまだ震災は終わっておらず、5年間ずっと耐えるような生活を続けています」「ここにいる人達なら、お互いの悩みを話せるんだと安心できます」と口を揃えておっしゃいます。福島県にYMCAの拠点が無いので、これは年に数回の開催の細長いプログラムですが、それでも現地のコミュニティ支援活動に確かになっているのだと実感できました。

放射線量の減少や居住地制限解除と、復興が進んでいるように思える福島ですが、結局のところ「復興した」「もう安心」「震災は一区切り」と判断するのは、そこに暮らす人々です。先述のように、先の見えないリスク・不安の中に今でもいる方々が今でも少なくない現状、福島の外に暮らす私たちが「もう福島は復興した」と何をもって言えるのでしょうか。むしろそこで暮らす方々に寄り添い続け、彼らの思いに耳を傾けることが必要ではないでしょうか。

.....

おたより

<上妻英夫さん> 「孫の腕高校最後のドラム打ち」。秋雨も止み、急いで高校祭に行く。演劇にも出場、最後にロックのドラムを演じ満足した顔でした。しかし若者がリズムに合わせて熱狂するのです。

<浅羽俊一郎さん> 2015-16年度ユース事業主任の仕事も9月9-11日のユースボランティア・リーダーズフォーラムが無事終了し一段落（といっても報告書作成が残っている）。次は10月のあずさ部会に向けて頑張ります。

<増野 肇さん> 骨折でご心配おかけしました。出歩けるようになりました。

.....

編集後記 いよいよあずさ部会が近づきました。各クラブとの交流を一段と深め、これからの夢をはぐくむ時ともしたいと願います。(FK)

